

哲学誌 57

東京都立大学哲学会 2015

エウリーピデース『ヘレネー』におけるヘレネーの二重性 浜本 裕美 (1)

ハイデガーの存在の思索におけるピュシス概念 上田圭委子 (25)

〔第1回研究助成成果報告〕

カントと自然における種類の体系

—— 理性の仮説的使用から反省的判断力へ —— 洪川 優太 (47)

2014 年度哲学教室関係記事

授 業 題 目

(* は非常勤講師)

教養・外国語授業題目

哲 学 A	石川 求	環境と生命の倫理	* 金澤 修
哲 学 B	実川 敏夫	技術と倫理	千代鳥 雅
倫 理 学 A	* 上村 直樹	西洋古典学 A	小池 登
倫 理 学 B	* 永野 潤	西洋古典学 B	大芝 芳弘
論 理 学 A・B	松阪 陽一	ギリシア語 I	* 河島 思朗
心 の 哲 学	金子 善彦	ギリシア語 II	小池 登
科 学 哲 学	岡本 賢吾	ラ テ ン 語 I	* 金澤 修
自然と文明の哲学	千代鳥 雅	ラ テ ン 語 II	大芝 芳弘

学部授業題目

(講義)

古代中世哲学史	* 伊藤／金子	美 学	* 宮川 達
近 世 哲 学 史	実川／石川	西洋古典学概説 I	小池 登
日本倫理思想史	* 徳重 公美	西洋古典学概説 II	大芝 芳弘

(演習)

哲学基礎演習 I	Barry Stroud, <i>Hume</i>	松阪 陽一
哲学基礎演習 II	ドイツ語基礎文献購読	石川 求

学部・大学院共通授業題目

(特殊講義)

論理学中級	岡本 賢吾
論理学中級	松阪 陽一
新プラトン主義の哲学	* 金澤 修
新約聖書	* 甲斐 博見
ハイデガーによる『純粹理性批判』解釈の検討	* 近藤 秀
ハイデガーの「存在の歴史」の構想と現代	* 陶久明日香
フランス現代哲学における身体論	* 杉本 隆久
20 世紀フランス思想を手がかりとした現代社会の諸問題	* 永野 潤
情報と様相の論理と哲学入門	岡本 賢吾
ダメットの証明論的意味論	* 大西 琢朗
数学・論理学における直観主義的真理観	* 黒川 英徳
食や健康など、身近な問題	千代鳥 雅
双子のパラドックス	千代鳥 雅

(哲学・倫理学演習)

Platon, <i>Protagoras</i>	金子 善彦
Aristoteles, <i>De anima</i>	* 伊藤 雅巳
Aristoteles, <i>De anima</i>	金子 善彦
Augustinus, <i>Confessiones</i>	* 上村 直樹
Descartes, <i>Discours de la méthode</i> / Pascal, <i>Pensées</i>	実川 敏夫
Spinoza, <i>Ethica</i>	石川 求

Kant, <i>Kritik der Urteilkraft</i>	石川 求
Hegel, <i>Wissenschaft der Logik</i>	石川 求
Bergson, <i>Les deux sources de la morale et de la religion</i>	実川 敏夫
Wittgenstein, <i>Philosophische Untersuchungen</i>	岡本 賢吾
Nietzsche, <i>Also sprach Zarathustra</i>	千代島 雅
Jesse Prinz, "Regarding Composure: A Defence of Prototype Compositionality"	松阪 陽一
研究発表と討論	岡本 賢吾
(西洋古典学演習)	
Platon, <i>Politeia</i> 〈ギリシア語散文〉	大芝 芳弘
Sophocles, <i>Trachiniae</i> 〈ギリシア語韻文〉	小池 登
Tacitus, <i>Annales</i> 〈ラテン語散文〉	小池 登
Vergilius, <i>Aeneis</i> 〈ラテン語韻文〉	大芝 芳弘

大学院授業題目

古代哲学研究	修士課程・博士課程在学者への論文作成指導	金子 善彦
近世哲学研究	修士課程・博士課程在学者への論文作成指導	石川 求
近世哲学研究	修士課程・博士課程在学者への論文作成指導	実川 敏夫
現代哲学研究	修士課程・博士課程在学者への論文作成指導	岡本／松阪
西洋古典学研究法	修士課程・博士課程在学者への論文作成指導	大芝／小池
博士論文指導	博士課程在学者への論文作成指導	博士課程指導教員

論文題目 (2013 年度)

卒業論文

ヒューム因果論の考察	姉川 龍悠
分析哲学について	内田森太郎
チューリング機械	
——その論理的構造と概念的興味：チューリングの原論文に則して——	笹本 もも
なぜやろうと思ったことができないのか	
——意志の弱さの原因について——	設楽 昭寿
『童子問』における学問観および思想について	高木梨恵子
シモヌ・ヴェイユの『重力と恩寵』における、自然法則を介した 「重力」・「恩寵」・「真空」という用語の比喩的関連性についての考察	福井 匠
分析と直観の相互浸透	
——ベルクソンの『形而上学入門』を読んで——	山岡 大騎
これからの「人間」観について	横山 愛香
「復興と貧困」	吉村 諒

修士論文

ハイデガー『心理主義の判断論』における「意味」について	伊勢 俊介
-----------------------------	-------

学科消息

2015 年 3 月に、実川敏夫教授が定年退職します。2015 年 4 月に、木田直人氏が
准教授に着任します。

2014 年度学会記事

第 57 回東京都立大学哲学会総会及び第 38 回研究発表大会

2014 年 7 月 12 日

第 57 回総会

例年通り、前年度の事業報告が行われ、今年度の事業計画が議せられました。

第 38 回研究発表大会

今回は下記の研究発表が行われました（午後 2 時 00 分～5 時 15 分）。

若きハイデガーにおける「意味」について

——『心理主義の判断論』における「妥当」概念を手がかりに——	伊勢 俊介
カント『判断力批判』における諸認識能力の関係	洪川 優太
時間の垂直化と永遠の諸速度	平井 靖史
数学と変数 —— 多項式論の変数 ——	竹内 泉

総会・研究発表大会の後、懇親会が催されました。卒業生など約 40 名の方々が参加されて盛況のうちに閉会しました。

会員出版物の紹介

以下に記載させていただいたのは、本誌編集委員が把握できた限りのものです（会員である著者・訳者名 50 音順）。

江川隆男著

『アンチ・モラリア 〈器官なき身体〉の哲学』河出書房新社、2014 年

アリストテレス著、神崎 繁訳

『アリストテレス全集 15 ニコマコス倫理学』岩波書店、2014 年

市野川容孝ほか編、永野 潤ほか著

『労働と思想』堀之内出版、2015 年

福居 純著

『デカルトの誤謬論と自由』知泉書館、2014 年

会員の皆様の研究業績に関する情報を集めております。とくに、研究書を出版された方はご一報下さい。

東京都立大学哲学会研究助成の対象者について

今年度（2014 年度）の東京都立大学哲学会研究助成の対象者は、本学会委員長および運営委員からなる選考委員会の厳正な選考の結果、山崎紗紀子氏（研究課題「命題概念および、様相概念の意義再考 —— 近年の様相同伴についての論理的な研究 ——」）に決定いたしました。

本号掲載論文について

本誌掲載論文のうち、浜本裕美氏および上田圭委子氏の論文は、会員の公募論文から厳正な審査を経て選ばれたものです。渋川優太氏の論文は、第1回研究助成の成果報告です。

『哲学誌』第58号掲載論文投稿規定

下記の通り『哲学誌』第58号の原稿を募集いたします。ふるってご応募下さい。

1. テーマ
限定しません（ただし、オリジナル論文に限ります）。
2. 長さ
[和文の場合] 24,000 字（400 字詰原稿用紙に換算して 60 枚）以内
（注・文献表を含む）
[欧文の場合] 12,000 語以内
3. 体裁
・ 正・副計 3 部提出して下さい。
・ 欧文タイトルを添えて下さい。
・ 採用が決定した場合、あらためて電子テキストを提出していただきます。
4. 提出場所
192-0397 八王子市南大沢 1-1
首都大学東京哲学事務室内
東京都立大学哲学会事務局
(TEL 042-677-2068 / FAX 042-677-2073)
5. 提出期限
2015 年 10 月 1 日（木）午後 5 時必着（厳守）

編集後記

本学会の第2回の研究助成の対象者が決まりました。この助成金が少しでも研究の役に立てばと考えております。ただ、相変わらず研究助成への応募者が少ないことが気になります。応募者が少ない今はチャンスですから、資格のある方はチャレンジしてみてもいかがでしょうか。

本学会のホームページのデザインを刷新いたしました。会員の四津雅英氏のご尽力によるものです。内容もこれまで以上に充実させていく予定ですので、お暇なときでも本学会ホームページをのぞいてみてください。

例年申し上げていることですが、今年度も査読をお願いした先生方には本当にお世話になりました。ご多忙であるにもかかわらず、本当に熱心に論文を読んでいただき、実に的確なご指摘をいただきました。この場をお借りして、心より御礼申し上げます。

東京都立大学哲学会規約

- 第1条 本会は東京都立大学哲学会と称し、東京都立大学人文学部哲学科および首都大学東京都市教養学部哲学教室の関係者、ならびに、本会が特に承認する者の任意加入を以て構成される
- 第2条 本会は広義の哲学思想の研究とその普及を計ることを目的とする
- 第3条 本会は前条の目的を達成するために以下の事業を行う
- 1 毎年数回研究発表会を開く。うち1回は大会とする
 - 2 毎年1回会誌を発行する
 - 3 他の哲学会との交流を行う
 - 4 哲学に関する著述・翻訳を組織的に行いその出版を計る
- 第4条 本会は会員組織とし、会員は一般会員、名誉会員からなる
- 第5条 第3条の事業を行うための機関として総会および委員制度を設ける
- 1 年1回総会を開催する
 - 2 委員は委員長1運営委員若干名編集委員若干名会計監査2監事若干名とし、総会で選出される
 - 3 委員の任期は2年とする。ただし再選を妨げない
- 第6条 本会の経費は会費および寄付金によってこれを賄う
- 1 会員は会費を納入するものとする。ただし名誉会員はのかぎりではない
 - 2 会費は年額一律4,000円とする。ただし学生は2,000円とする
 - 3 寄付金は一口10,000円として受け付ける
- 第7条 会員は会誌の配付をうけ本会の行う諸種の行事に参加することができる
- 第8条 5年以上の会費未納者は退会とみなす
- 第9条 本会の事務局は首都大学東京都市教養学部哲学事務室内に置く
- 第10条 本会規約の改正変更はすべて総会の決議による

哲 学 誌 57

2015年3月25日発行 ￥1,200

編集・発行 東京都立大学哲学会

代表者 甲斐博見

〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1

首都大学東京人文社会系哲学事務室内

TEL 042-677-2068 / FAX 042-677-2073

e-mail ph-so@tmu.ac.jp

郵便振替口座：00150-6-90711

制作 (株) インフォテック

HISTORIA PHILOSOPHIAE No. 57

The Society of Philosophy of Tokyo Metropolitan University 2015

Geminations of Helen in Euripides' <i>Helen</i>	HAMAMOTO Hiromi	1
The Concept of Physis in Heidegger's Thought of Being	UEDA Keiko	25
[The report of the 1st financial support for research]		
Kant und System der Natur nach dem Begriff von Art und Gattung: Vom hypothetischen Gebrauch der Vernunft zur reflektierenden Urteilskraft	SHIBUKAWA Yuta	47